令和２年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　書面協議結果

資料１

委員氏名	1. 令和2年度市民アンケート調査結果概要について	2. 伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略　令和2年度の実績評価について
委員1	＜ご意見＞ アンケートの取りまとめ、お疲れ様でした。 回答者の属性で20～30歳代が全体の21.3%という事で、これから家庭を持つであろう若者世代の声がなかなか反映しにくいかとも思いますが、未曾有のコロナ禍が今までの生活様式を根本からくつがえして、テレワークの普及やネット通販の有効活用等々、田舎に住んでいてもまあまあ快適に生活できる!!いいネ!!伊豆市！という流れが少しでも大きくなるといいな～!!と願うばかりです。 新中学校の開校も一歩一歩進めつつ、子ども達が大きく巣立って、人生の伴侶を連れ立って故郷に戻り、この伊豆市で子育てしたい！そう思えるような伊豆市づくり…なかなかコレだ!!という名案は一言では言えませんが、コツコツ積み上げて点と点を結んで創っていくしかないものですね。	＜ご意見＞ コロナ禍という状況下、人流を縮小せざるを得ない状況で、観光事業も大きくペースダウン。 子ども達の教育面もとても大変な局面が続いている中、今はひたすら健康に留意して耐え忍ぶ時期かと思いますが、こんな時代だからこそ、老若男女優しさを忘れず、伊豆市民がワンチームになって『伊豆市LOVE!!』の種がそれぞれの心に植えられて育ってくれたらよいなと思います。限られた出来る事・やっても良い事の中から、歩みを止める事なく、少しずつでも伊豆市を発信して下さっていて、ありがとうございます!! ＜回　答＞ 伊豆市を愛する心の醸成（いわゆるシティプライド）は、人口減少対策に非常に重要な取り組みであると考えております。ポストコロナ・ウィズコロナにおいても大人も子どもも市民が素晴らしい故郷と自信を持って言えるような、誇りと活力に満ちたまちづくりの取り組みを進めてまいります。
委員2	＜ご意見＞ アンケート結果については、昨年度とほぼ同じ数値か微増であったので、市民の意識、求めているもの、課題は変わらない。 その中で『①伊豆市での生活環境について　(3)今後も伊豆市に住み続けたいか』の問いには、30代40代の子育て・ファミリー世代の居住意向が増加しているのは、良い傾向である。その要因の一つに伊豆市の子育て支援の充実ぶりが、少しずつ浸透しているのではないかと感じた。また私の周りでも「伊豆市が前居住市よりも子育て支援に取り組んでいると感じる。友達に良さを話（伝え）ている。」とか「住居取得の補助金制度があるのも良い」などの声が聞こえてくる。現在子育てをしている人たちが、友達や周りに発信してくれることは大きな力にあるを思うので、是非この輪が広がっていくとよい。ロコミ、SNSの力は偉大である。 『③市政について』では3項目が新設され、伊豆市が抱えている課題に向けて具体的に意向を聞くことが重要であると思う。(1)関係人口の項目では、「何らかの形で関わりたい」と回答している人が66.5%もいることは、力強い。具体的な形になっていくと良い。 『調査結果まとめ』をうけて、市民の声から聞こえてくる課題解決に向けて、市民と行政が一体となって進んでいきたい。そのためには、計画を地道に一つ一つ実行していくことだと思う。	＜ご意見＞ 伊豆市の魅力を発信するSNSの「＃伊豆市いいね」や三島駅に大型看板を掲出するなど、具体的な取組が見られたことを評価したい。 令和2年度は、全般的にコロナ禍の影響が大きく、特に観光業・サービス業等に携わる人の割合が多い伊豆市においては多大な影響を受けた。 その中にあって、 【しごと】2. 商工業の活性化に挑むにぎわい向上プロジェクトは目標値を超えていて、成果を上げている。引き続き、企業・創業が推進され働く場の創出につながると良い。 【ひと】1. ”育てて育つ”Happy子育てプロジェクトの子育て支援サービスの項目の%満足度が低いことは残念である。伊豆市が他市と比べても引けを取らないばかりか、伊豆市ならではの支援もある。頑張っているのに、市民との意識に差が見られる理由は何なのだろう。市民のニーズ（市民アンケートなどから、課題を拾い出し）に応えられる施策をお願いしたい。 【まち】すべての世代が「幸せ」に暮らす　1. 伊豆市愛を育む”大好き地域”実践プロジェクト　R2の取組　一番下〔総政5〕「（略）農地取得の制限緩和が必須であることから、伊豆市で可能な制度改正等について先進事例を参考に検討を行った」と記述があったが、是非農家でなくても農地を取得できるようにしていただきたい。農業従事者の高齢化というより耕作されていない田畑が目に付く現状を変えるべく、移住希望者や家庭菜園を楽しみたい人たちのためにも、誰でも農地を取得できるようになるとよい。 【まち】すべての世代が「幸せ」に暮らす　2. 安心・安全を生みだっすネットワーク強化プロジェクト地区防災計画の策定件数（件）R2年度の実績が0なのは、これから取り組んでいくことだと思うが、熱海の土石流の被害等の自然災害がいつ起こるかどこで起きるかわからない現状を考えると早急な策定が望まれる。 ＜回　答＞ ・他市町に負けない子育て支援サービスを行っているにもかかわらず満足度が低い理由はどこにあるのかを検証し、市民のニーズに応える施策を展開してまいります。 ・農地取得の制限緩和については、農業や家庭菜園をしながら地方で暮らしたい移住希望者が”農地付き空き家”として取得できる制度の構築に取り組んでまいります。 ・地区防災計画の策定は、令和3年度に市が作成した「発災からの行動タイムライン」をもとに、『いつ・誰が・何をすべきか』を時系列で把握し備える計画としてコロナ禍により未策定の大藪区・伊豆市観光協会土肥支部の策定を進めるとともに他地区への策定を促し”災害に強い防災組織”の体制づくりを進めてまいります。

令和２年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　書面協議結果

委員氏名	1. 令和2年度市民アンケート調査結果概要について	2. 伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略　令和2年度の実績評価について
委員3	＜ご意見＞ コロナ禍において、田舎の魅力が再認識されているのはいいことだと思います。(私も田舎でよかったと実感しています。田舎の良さを発信できるといいですね。)	＜ご意見＞ 様々な分野の取組内容、とても素晴らしいと思います。 もっと市民に知ってもらうためにも、SNS等で発信していってほしいです。 コロナ禍ではありますが、もっと市民をまきこんでより良い伊豆市になるといいですね。 ＜回　答＞ 市の取り組みを理解していただくとともに、市民と一体となった取り組みができるよう、市が取り組んでいる施策について、SNSで積極的に発信してまいります。
委員4	＜ご意見＞ ①伊豆市での生活環境についての(2)伊豆市への愛着の回答で、20代は低い数字ですが、年代が上がると愛着を感じる比率が高くなっています。これは、年齢を重ねることで伊豆市の歴史や文化・自然・風土等の素晴らしさがわかってくる結果ではないかと思います。若い年代の低さは、都会志向等が強く仕方ないと思います。	＜ご意見＞ 多くの項目で、コロナ禍の影響を強く受けていると感じました。 昨年度、教育現場では年度初めの長期休校から始まり、行事の中止や延期、授業時間の確保のために長期休業を短縮するなど、異例の1年となりました。児童・生徒への影響はかなり大きかったです。 そのような中、伊豆総合高校総合学科の授業では、伊豆市さんに多大なご協力をいただき、やれることを模索しながら地域と関わる実践的な教育活動を行うことができました。たいへんありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。 ＜回　答＞ 若年層における郷土への愛着の比率の低さを少しでも解消する意味でも、伊豆総合高校の生徒の皆さんとの連携は、非常に重要な取り組みと考えております。今後も高校生をはじめ若者が自分たちの地域に興味をもち、まちづくりの担い手になっていただけるような機会の創出に取り組んでまいります。

令和２年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　書面協議結果

委員氏名	1. 令和2年度市民アンケート調査結果概要について	2. 伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略　令和2年度の実績評価について
委員5	意見等はありません。	＜質疑＞ 「伊豆市ひとり親移住定住促進計画」の業種の拡大はいいと思うが、同計画の周知・PR方法をどのように行っているか。 ＜回答＞ ⇒伊豆市ひとり親移住定住促進計画の周知・PRは伊豆市ホームページにて公開し周知を進めております。今回の補助制度の対象業種の拡大については、伊豆市ホームページとは別サイトの移住定住促進ページ「いずぐらし」にて詳細を掲載し、他の支援制度と併せてわかりやすい情報発信に努めております。今後は計画についても取り組みを多くの方に知っていただける周知方法について検討・実施してまいります。 ＜質疑＞ 「中小企業等奨学金返還支援補助金」の運用を開始するにあたり、対象者の把握はできているか。また、できていなければ、どのように行うか。 ＜回答＞ ⇒運用検討時に、補助の対象となる事業所があること・奨学金を利用した従業員の在籍等については把握しておりました。今後も事業所にチラシ配布による制度の周知・活用の呼びかけを継続するとともに、対象事業所については合同就職説明会で取り組みを紹介する等、制度の更なる活用を進めてまいります。
委員6	意見等はありません。	意見等はありません。
委員7	＜ご意見＞ 資料1-①-(3) 「伊豆市に住み続けたいと思う」が増加しているのが良い傾向だと思います。 中でも子育て世代である30代、40代は増加の幅も全体の割合も多く、また(2)「愛着を感じる」の割合も多いことから、「強みを伸ばす」方向でこの世代をターゲットにすれば、この先の移住定住を促進しやすくなると考えます。 その場合、子育てのしやすさや子どもの教育が注目されることになりますので、伊豆市の子育て支援制度が進んでいること(制度自体は良いのにあまり知られていない)、小中学校は都会よりも人数が少ないことを活かしたきめ細かい指導がされていることや、通える範囲の公立高校が多様で高学歴を目指す子どもや技能を身に着けたい子どもにも対応できること等、特徴の周知が進むと良いと考えます。 データとしては、2010年の高校生アンケートで約6割が「将来は伊豆市に住みたくない」と答えていたと記憶しているので、今の10代の意向も知りたいところです。 ＜回答＞ 今後、学校で実施のアンケートに「地域への愛着」や「将来的な地元への居住意向」等の項目追加について検討してまいります。	＜ご意見＞ 資料2-p3「教2」の、「一人一台端末の導入」は他市町と比較しても早く、高い評価を得るものと思います。コロナ禍でこの先万一自宅学習になったときにも有効に活用できればよいと思いますし、さらにこれを活かした市内学校間の日常的な交流、ICTスペシャリストによる授業など特色のある教育に活用し、広く発信できれば、移住促進の動機にもつながると考えられます。 資料2-p5「建設」について 「伊豆市移住情報センター」での現場の感覚からすると、子育て世代は「自然が豊かな所でのびのび子育てしたい」という意向の方が多いです。またコロナの影響で「テレワーク勤務できるから自然豊かな所で暮らしたい」という意向もR2年度に急増しました。定年後の居住地として希望される方も「庭付きの戸建てで家庭菜園」といういわゆる「田舎暮らし」への憧れが多く見受けられます。資料3の視点2「転入の理由」にも「自然環境が豊かである」が挙げられています。 上記のような意向の方は多少の不便は承知の上で移住を検討されていました(子どもの通学に関しては定期の支給がありバス停が近ければ問題なさそうです)。 ということは、現在の自然豊かな環境・景観(田畑などの農地も含め)を維持することが、今後も移住を促進することになると考えられます。住宅が林立するいわゆる「ベッドタウン」のような風景になってしまっては、この「適度な田舎暮らし」が実現できる伊豆市の良さを損ない、逆に転出してしまうことすら起きるかもしれません。 エリアごとの特色を踏まえ、住宅は空き家バンクの充実を図るなど「今あるもの」「田舎暮らしさを失わないもの」、という視点も重要であると考えます。 ＜回　答＞ ・英語やICT教育など伊豆市ならではの教育の特色を展開していく様子を伊豆市ホームページをはじめSNS・戦略的プロモーションでのPR等により効果的に活用し、伊豆市の魅力の一つとして広く発信してまいります。 ・豊かな自然景観や温泉、歴史、伝統文化などの豊かな地域資源を持つ「伊豆市らしさ」を守りつつ、新たな魅力を創出することにより、地域の魅力を高める取り組みを進めます。

令和２年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　書面協議結果

委員氏名	1. 令和2年度市民アンケート調査結果概要について	2. 伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略　令和2年度の実績評価について
委員8	＜ご意見＞ ｱﾝｹｰﾄ①-(2)・(3)・②については地区別のデータも見たかった。 合併して16年が経過しましたが、いまだに各4町の地域性や考え方などの違いが感じられます。従って各地域の考え方にどれほどの違いがあるか知ってみたい。 ③については市政や地域に係る事を聞いていますが、自分が思っているよりは多く方が関わりたいと考えているように思えます。ただこの場合各自が自分から率先していく事はあまり考えれないと思います。グループの代表制でも構わないので、しっかりしたリーダーを作る事が必要ではないかと思います。 (3)～(6)は行政主導で取り組んでいくことなので、市民の声のニーズに合った取り組みをしていただきたい。	【しごと】 ＜ご意見＞ 1.地元の企業では人手不足・社員の高齢化の問題があると思うのだが、それが求人情報などにあまり表れてこないような気がする。一度各企業にアンケートを実施してみたい。 2.ｺﾛﾅ禍の中ではありますが、修善寺温泉場のような所は人さえ来ればそこで商売をしてみたい人は必ず現れます。ただ空き店舗が少ない。 ＜質疑＞ 3.アマギフトはどこで買えるのかが分からない。過去3年間DMOの理事会でｼｽﾃﾑづくりをちゃんとするように言っているが実行されない。取り扱い商品の基本的な事（需要があった場合の供給）が出来てないような気がする。ただ生産者との検討・協議でなくﾌﾟﾗﾝﾄﾞしてあるのであればすぐにでも取り組み確立する必要がある。 4.市外に宣伝をするのであれば、もう一度市内各地区を見直して各地区にあった観光戦略を作り、各地区が競いあいながら、お客様が伊豆市に来て良かったなと思わせる事が必要な気がする。 ＜回答＞ ⇒3. について 　現在「アマギフト」は、販売するシステムがなく販売はできていない状況です。そのため、昨年度認定事業者へのヒアリングを行い、また先日認定事業者にお集まりいただき、今後の方向性について議論しました。現在、販売戦略アドバイザーを入れ、認定事業者の皆さんと合意の上、認定基準の見直しや今後の販売戦略等について協議中です。 　認定事業者より、１日でも早く前に進めることのご要望をいただきましたので、できることから少しづつ進めていくことを確認しています。 ⇒4. について 　観光客へのアプローチとしては、伊豆市全域の観光スポット以外の地域資源の魅力に焦点を当てた「新たな観光メニュー（コンテンツ）」の発掘・磨き上げを実施し、観光客満足同向上させリピーターを増やし、観光の魅力化を図ってまいります。 　そのためにもまず、市民が地域の魅力を再認識し、誇りに思い共有することが必要と考え、今年度市民対象のツアー（市民ツアー）を各地区ごと月1回実施しています。 【ひと】 ＜質疑＞ 1.子育てに係る人は子育てが済むと子育て支援に係る事から離れると思うので、先輩ママとして長く関われるような人材の育成も必要では？ 2.まだ収束しないｺﾛﾅ禍な中で子供たちが、ｺﾛﾅ禍がまだ今後も続くことも念頭にどのように学んでいくかを早急に考え実行する必要があるのではないでしょうか？ 3.近所付き合いが減ってきている中で、各地区にあるサロンの活動の支援ができれば施設に入っていない高齢者の健康増進につながるのでは。 4.地域活性化をするのであれば、人材を育てるのが急務ではないでしょうか。地域に係わりたくともどのようにして良いかわからない人が多いのでは。また定年して地元に戻ってきた人が地元にうまく関われるようになれば良いのですが。移住者についても同様な気がします。 ＜回答＞ ⇒1. について 　先輩ママが子育てを支える人材や団体として地域や人と関わり続ける体制づくりに向けて、子育てイベントや教室等開催に対し助成を行うなど、自主的かつ積極的な活動を支援してまいります。 ⇒2. について 　新型コロナウイルス感染症の影響で自宅待機や学校休校等により登校できない状況にあっても学習機会が減ることのないよう、一人一台端末の持ち帰りによる遠隔学習の整備等を進めてまいります。 ⇒3. について 　高齢者の居場所づくり事業として、地域の皆さんによる高齢者の通いの場および支え合いの場づくりを担う団体へ

令和２年度　伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　書面協議結果

委員氏名	1. 令和2年度市民アンケート調査結果概要について	2. 伊豆市まち・ひと・しごと総合戦略　令和2年度の実績評価について
		の支援事業を進めており、高齢者の健康増進にも寄与しております。 ⇒4.について 　令和3年度から、まちづくり活動を先導する皆さんや未来塾の卒業生の皆さん、移住者の皆さんなど、伊豆市の資源となる人材の把握をするため、様々な分野で活躍されている方々にヒアリング調査を実施しています。調査だけでなく、それぞれの活動支援も同時に行っています。今後は、それら人材同士の連携や移住者と地域住民との連携などを進め、地域の活性化につなげる取り組みとして「Izu　Connect」の推進を図ってまいります。 ＜ご意見＞ 　全体的には、もう少し市全体の現状をつかみ、既存で行っている事業の内容を検討してその事業がどれだけの成果が上がっているか精査することも必要であると思います。地域づくりは人から始まると思うので、元から住んでいた人や、移住をしてきた人との交流を通じて色々な事が考えれる状況を作る事が大切だと思います。 　色々と書きましたが、市役所・一般市民など世代ごとに集まりこの街をどのようにしたいかを議論する場が欲しいです。あと地域づくりに興味のない人をどのようにしたら巻き込めるかも考えたいと思います。 ＜回　答＞ 　貴重なご意見、ありがとうございます。今後は、子育て世代の交流の場・伊豆総合高校を中心としたまちづくり連携の場・未来塾・I、Uターンカフェなど、様々な世代ごとに集まる場を活用し、それぞれの世代が考える「伊豆市のありたい姿」について意見交換する機会づくりを検討してまいります。
委員9	意見等はありません。	意見等はありません。